

宜基渉第24号
平成27年1月14日

外務省沖縄事務所沖縄担当大使
高田 稔久 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

米軍機による夜間騒音等について（抗議・要請）

貴職におかれましては、平素より本市の基地問題解決に御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

普天間飛行場は、SACO合意から18年、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故から10年が経過した現在も本市のど真ん中に存在し続け、その間、宜野湾市の人口は約9万6千名となり、基地面積を除く1平方キロメートルあたりの人口密度は7千名を超え、その分、危険性も増大し、騒音をはじめとする基地負担は市民の大きな負担となっております。

市民の負担が特に大きい夜間騒音、旋回飛行訓練、外来機飛来については、「普天間飛行場負担軽減推進会議」及び、「作業部会」等で強く改善を求めているところですが、1月は、13日時点で、夜間騒音及び住宅地上空での旋回飛行訓練による苦情が30件も市に寄せられました。

特に1月10日には、深夜12時近くに83.3dBもの騒音が、上大謝名地区で測定されており、市民生活に大きな負担を及ぼしております。

夜間騒音に関しては、昨年12月24日に沖縄防衛局並びに米軍に対し、抗議と夜間飛行の中止を求めておりましたが、一月とたたず夜間10時以降の騒音が再び確認されたことは誠に遺憾であります。

つきましては、貴職から米軍に対し、米軍機による夜間騒音、住宅地上空における旋回飛行訓練及び外来機飛来の中止を強く申し入れていただくようお願い申し上げます。